

2024年 9月 6日 発行

2024年 11月 15日 更新

2025年 2月 3日 更新

2025年度

経済学部ゼミナールガイドブック

明治学院大学経済学部

2025 年度 経済学部
ゼミナールガイドブック

明治学院大学経済学部

目 次

演習のすすめ … 2

教員によるゼミの紹介 … 3～47

経済学科	頁
犬飼佳吾	3
大石尊之	4
大村真樹子	5
岡本実哲	6
神山恒雄	7
神門善久	8
児玉直美	9
小林正人	10
齋藤隆志	11
齋藤弘樹	12
佐々木百合	13
宋立水	14
高松慶裕	15
田中淳一	16
田中鉄二	17
土屋拓也	18
中野聡子※2次募集～	19
中村友哉	20
室和伸	21

経営学科	頁
赤松直樹※3次募集～	22
飯田浩司	23
五十嵐千尋	24
尾畑裕	25
北浦貴士	26
斉藤嘉一※3次募集～	27
佐藤成紀	28
田原慎介※3次募集～	29
中野暁	30
西村三保子	31
浜口幸弘	32
森田正隆	33
吉田真	34

国際経営学科	頁
渥美利弘	35
李惠源※3次募集～	36
生方雅人	37
大野弘明	38
岡崎哲二	39
加藤木綿美	40
木川大輔	41
工藤健太	42
小滝秀明	43
西原博之	44
藤田晶子	45
マイヤーオーレ	46
松園保則	47

演習のすすめ

2024年9月1日

経済学部長 藤田晶子

演習は、これまでの大教室での受動的な講義とは異なり、教員の丁寧な指導のもとに、仲間とともに主体的に調査・研究をすすめ、いろいろな視点から一つのテーマをとことん深掘りしていく場です。問題提起から課題解決にいたるまで、社会で必要不可欠な論理的思考をつちかう場でもあります。

演習の魅力は、一言では言い尽くすことができません。

履修者はわずか10人程度の少人数ですので、教員やその研究を身近な存在として感じることができる貴重な機会です。国内外で生起する経済問題を議論し、ときに人生についても語り合える仲間は、一生の宝物（たからもの）ともいえるでしょう。調査・研究・プレゼンはもとより、飲み会や合宿、OBOGとの交流会、他大学のゼミとのディベートなど、まさに「これぞ大学！！」が演習です。

ゼミナールガイドブックを読んで、各教員の演習内容をしっかりと把握したうえで、自分が研究したいことを考え、どの演習に応募するかを選んでいただきたいと思います。

みなさんの大学生活をより充実したものにするために、ぜひ、演習を経験してみてください。

犬飼 佳吾 ゼミナール

演習のテーマ

行動経済学、実験経済学、ニューロエコノミクス

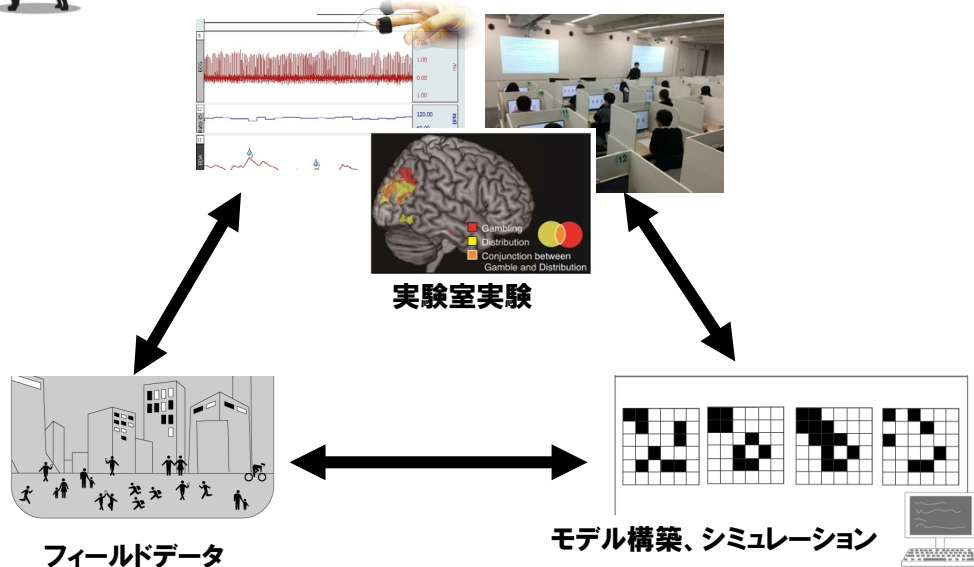
演習の内容

このゼミでは、実験という手法によって、私たちの意思決定や行動原理、経済の仕組みを理解することを目的としています。ゼミの学生は、実験研究に関する背景知識の学習を進めたうえで、教員と相談しながら実験研究のプロジェクトを進めます。研究を進めていくなかで、経済学の考え方や理論を学ぶだけではなく、実際の私たち自身の行動の仕組みについて理解し、より良い意思決定や社会の仕組みを考えていきたいと思えます。

ゼミで扱う研究範囲は多岐にわたります。たとえば、私たちの意思決定のクセや特徴を調べたり（行動経済学）、経済や社会の仕組みを実験によって検討したり（実験経済学）、経済学的な意思決定や判断をしているときに脳や体の中でどんなことが起こっているかを研究（ニューロ・エコノミクス）します。これらの課題について教員やゼミ生と議論しながら、卒業論文にむけて研究を進めていきます。

また、このゼミは従来のゼミの枠組みを超えて、実験経済学研究室という単位のもと、国内外の研究者と連携しながら先端研究を推進しています。

生物として「ヒト」と経済学や社会科学が対象とする「人」との間をつなぐ研究に興味をもち、強い情熱や好奇心のある方を募集します。



大石 尊之 セミナール

演習のテーマ

法と経済学（ブロックチェーンと法のゲーム論的分析：限定合理性の観点から）

演習の内容

学生の皆さんは、法律と聞くと、例えば、六法（憲法・民法・刑法・商法・民事訴訟法・刑事訴訟法）等を想起するかもしれませんが、私たちの日常生活や企業活動を円滑にするうえで法律が欠かせないという認識では一致していると思います。1960年代以降、主に米国で発展してきた、法と経済学は、どの国においても中心となるような法領域を分析対象としており、所有と財産権や不法行為に関する法、契約法、刑法、競争法・知的財産法や国際法などが研究されてきました。私自身は、市場理論、ゲーム理論およびグラフ理論といったマイクロ経済学やネットワークの数理分析の手法を通じて、因果関係が複雑な不法行為法の問題を規範的に分析したり、所有権の形態がどのように市場と法制度の双方を通じて内生的に決定されるのか等を分析したりしています。最近、研究代表者として「ブロックチェーンの法と経済学：スマートコントラクトの財産権分析」

（2024年度科学研究費助成事業基盤(C)）や「ブロックチェーンと所有権の経済分析」

（2023年度明治学院大学産業経済研究所プロジェクト）等の研究プロジェクトを立ち上げて、学内外の経済学者・法学者の研究プラットフォームの構築と当該研究を推進して、デジタル時代の新しい法制度の設計に向けた理論構築を目指しています。

私は「法と経済学」を、法制度や法律の社会的パフォーマンスを評価したり、規範や慣習を含む法的ルールが市場や組織とどのように関連しているのかを明らかにしたりするための経済学として位置付けています。このような観点から、これまで3年ゼミでは、例えば、競争法や規範、慣習のメカニズムを、ゲーム理論を通じて議論するために、法学者や（法と）経済学者が書いたテキストを輪読してきました。また、4年ゼミでは卒論執筆に向けて、各自が興味ある法と経済学に関する研究テーマに即して、論文指導をしています。ゼミ生は、私が担当する「法と経済学1&2」を履修することが必須となっており、これらの科目履修を通じて、法と経済学の基本的な考え方を学びます。

2025年度は、デジタル通貨などの基盤技術であるブロックチェーン技術が様々な法制度に与える影響を、人間の限定合理性を念頭にしたゲーム論的な枠組みで分析することをテーマにしたいと思います。使用するテキストは、ブロックチェーンの法学的分析の先駆的著作であるテキストの邦訳本である「ブロックチェーンと法：＜暗号の法＞がもたらすコードの支配」（プリマヴェラ・デ・フィリッピ&アロン・ライト 著、片桐直人 編訳、弘文堂、2020年）を予定しています。現実の法律やブロックチェーン技術が社会に与える影響やその相互作用に関心を持ち、人間の限定合理性を念頭にした新しいゲーム理論の応用にも関心がある、学生の参加を歓迎します。

大村 真樹子 ゼミナール

演習のテーマ

Health Economics (健康・医療経済学)

演習の内容

大村ゼミナールで健康・医療経済学の奥深さを探求

大村ゼミナールでは、公衆衛生と福祉の視点から、複雑な社会経済問題を扱う健康・医療経済学について学びます。健康・医療は私達の幸福・厚生にとり重要な要素です。その社会的仕組みや、関連する私達の行動を理解することは、私たちの厚生の改善も重要です。

学びの内容:

- **医療制度の経済分析:** 医療システムの社会的コストと利益のバランスは？健康保険制度の多様性と情報の非対称性から生じる問題はどのようなものか？
- **健康財の価値と特殊性:** 健康が他の財とどのように異なるのか？また、健康を重視する人々とそうでない人々の違いは何か？健康投資とは？
- **健康における行動経済学:** 健康への悪影響が明らかであるにも関わらず、なぜ人々が喫煙を続けるのか？ファストフードの摂取を減らす等の予防行動の経済的意味合いとは？
- **加齢と健康:** 加齢と健康の関係とは？健康資本は時間とともにどのように価値を減じるのか、そしてそれが個人の健康決定にどのように影響するのか？

ダイナミックなゼミナール体験:

- **アクティブなディスカッションとプレゼンテーション:** 3年次では、Bhattacharya, Hyde, Tu 著『Health Economics』（邦訳未発行の英語教科書）の担当箇所を、ゼミ同士協力して準備・発表し、そして討論に積極的に参加することが求められます。3年次の後半から、4年次で本格的に取り組む卒業論文の準備に取り組み始めます。

重要スキルの育成:

- **複雑なアイデアの表現:** 様々な経済分析手法を学び、かつこれらを分かりやすく、正しくかつ効果的に表現する一論文を書く・発表をする一力を身につけます。
- **知的的好奇心と視野の拡大:** 多様な「健康・医療」問題に対する造詣を深め、これらを批判的かつ経済的に考察することで知的的好奇心を養います。同時に、多様な経済社会事情に関する洞察を得て、幅広い視野を育てます。
- **どのようなキャリアにも基盤となる知識とスキル:** このゼミナールで習得するスキルと知識は、どのような分野でも活躍するための有用な資産となります。

岡本 実哲 ゼミナール

演習のテーマ

マイクロ経済学・ゲーム理論の応用—オークション, マッチング, 社会的選択理論

演習の内容

このゼミでは、マイクロ経済学・ゲーム理論の応用として現実のマーケットや社会制度の設計をテーマに学びます。

あなたが何かモノを売りたいとしましょう。そのモノは「誰が一番高く買ってくれる」、また「いくらで買ってくれる」のでしょうか。一人ひとりいくらで買ってくれるか聞いて回るのも大変だし、そもそも聞いたところで正直に回答してくれるかもわかりません。またお店を開こうにもどのくらいの価格を付ければ上手くいくのかわかりません。

オークション(競争入札)は、そのモノに興味がある人に集まって競争してもらう場を設けることにより「一番高く買ってくれる人」と「価格」を見つける手段です。しかし、ひとえにオークションといっても様々なルールがあり、どのように競争してもらうかによって結果が変わってきます。オークション理論では、オークションのデザインによってどのように参加者の行動や結果が変わるのかを分析します。

今日、オークションはいたるところで行われています。美術品などの高価なモノを扱うイベントから、個人でも簡単に参加することができるインターネットオークション、国債や周波数帯利用権といった公共部門によるオークションまで、様々なオークションが開催されています。皆さんが Google で検索するたびに表示される広告もオークションで決まっていますし、メルカリでの販売もある種のオークションとして捉えることができます。ゼミではこういった現実の問題を念頭にオークションのデザインなどを学びます。

ここではオークション理論を例に挙げましたが参加者の興味関心に応じて、マッチングや投票制度の設計などゲーム理論の応用分野、行動経済学、SDGs の経済学、ブロックチェーン、AI などの関連分野も扱います。ゼミでは経済学を学ぶことも当然ですが、経済学を学ぶことを通して「自分なりの考え方を持つ習慣」や「自分の考え方を他人に伝える力」を養う場にもしたいと考えています。そのためゼミでは講義を受けるのではなく、参加者各自が興味を持ったテーマについて発表してもらいます。受け身ではなく主体的な取り組みが必須です。原則、3年生はグループでの研究発表、4年生は個々人で卒業研究の発表を行います。

また、3年生と4年生が合同でゼミを実施していくため、横の繋がりだけでなく縦の繋がりも強いのがこのゼミの特徴です。

神山 恒雄 ゼミナール

演習のテーマ

近代日本経済史(幕末開港～第二次世界大戦)

演習の内容

近代の日本経済(幕末開港～第二次世界大戦)について検討します。

近代日本経済史を学ぶ意義は、現代とは本質的に異なる側面を持つ近代日本経済の実態を解明することで、現代日本経済を相対化してその特徴を理解することにあります。

そこで3年次では、まず基礎的な知識を習得するために、近代日本経済史の展開を大筋で把握できる概説書を講読します。その上で、特定の分野や時期を対象とする最近の研究書・論文(たとえば明治期の鉄道史)を講読することで、日本の資本主義化が可能になった条件を考察します。

4年次では卒論を作成します。テーマは近代日本経済史に関するものについて、参加者各自の関心に基づいて決めます。その上で、先行研究や利用可能な史料を収集・読破して卒論の執筆を進めるのですが、演習では進捗状況に応じて中間報告と個別相談を行います。卒論執筆には一定の準備期間が必要ですので、どのようなテーマで卒論を書きたいか、早くから考えておくことが重要です。

なお演習は毎回担当者を決めて発表形式で行いますが、発表担当者以外の参加者も討論に積極的に参加するために予習が不可欠です。また合宿などゼミの行事に積極的に参加・協力してください。

演習に関する質問はE-mailを利用してください。オンラインでの面談の必要があれば日時を相談します。(アドレスは kamiyama@eco.meijigakuin.ac.jp)

神門 善久 ゼミナール

演習のテーマ

経済学の基礎

演習の内容

参加者の希望に応じて弾力的に内容を決める。基本的に、図表を使った論述の仕方など、実利的な演習にする。

児玉 直美 ゼミナール

演習のテーマ

政策評価

演習の内容

情報技術の発展によって、大量のデータ（ビッグデータ）が入手できるようになってきました。「政策評価」は、国や地方自治体の「政策」をデータを使って評価するだけではありません。政策評価の方法を習得すれば、「どんな広告戦略を採用すると売上が上がるのか?」「社員の仕事の効率を上げるためにどんな方法が良いか?」「補助金にはどの程度の効果があったか?」「教育現場で、どの教材が効果があったか?」という問題にも答えることができます。近年、インターネット関連のハイテク企業だけでなく、多くの企業で、ポイントカードデータ、POS、スマホのメッセージやSNSを利用したダイレクト、リアルタイムに行う広告や販促が一般化しています。「政策評価」は、単にビッグデータが使えればできるわけではありません。機械学習などの手法で、巨大なデータを事後的に分析するだけでは、なぜそのようになったかというメカニズムの部分はブラックボックスになってしまいます。理論や先行研究を踏まえた仮説を組み立て、因果関係を明らかにする方法を習得しませんか?

このゼミの目的は、**計量経済学を使って、様々なデータから自分のオリジナルな発見をすること**です。公務員やコンサルを目指す人だけでなく、民間企業でマーケティングや新企画を立ち上げる時に、政策評価の知識とスキルは役に立ちます。データを駆使して自分で考える能力を養ってみませんか?この能力を活かし、各自、興味のある社会のメカニズムについて研究を行います。経済学の考え方を基本としますが、法律、経営、マーケティング、福祉、環境、スポーツ、趣味など、様々な視点を絡めて柔軟に考え、議論してください。

最初は座学での学習と実際のデータ分析を通じて分析感覚を養います。本格的な研究はグループワークで行い、統計分析ソフトの習得も含めて、約半年じっくり行います。研究成果はプレゼンテーション訓練を徹底的に行った上で、学内（ゼミ内、他ゼミ）、学外（他大学との合同ゼミ）で発表します。発表前には、グループで、ゼミ以外の時間に集まって準備することもあります。4年生では、これらの経験を活かして、自分の好きなテーマで、卒業研究を行います。その他、ゼミ生の希望に応じて、ゼミ合宿、他大学との発表会や合宿、懇親会、スポーツ大会なども行う予定です。ゼミ運営は「一人一役」で業務を分担します。ゼミの時間以外での活動も多いので、卒業後も付き合い合えるような仲間に出会えることは間違いありません。ゼミ活動、課外活動に積極的に関わる学生の参加を期待しています。

小林 正人 ゼミナール

演習のテーマ

Python によるデータ分析

演習の内容

コンピュータ言語 Python を学び、データ分析に応用していきます。

3 年次は、python や pandas の文法を学んだ後、『データサイエンス 100 本ノック構造化データ加工編ガイドブック』で基本的なスキルを練習します。

4 年次には、卒論執筆を目標として、OECD の『生徒の学習到達度調査』(PISA) や東京大学社会科学研究所の『親子パネル調査』などの数千件の調査データの分析を実際に行います。

プログラミングが初めての方でも歓迎します。Python は社会調査やマーケット調査などの大規模なデータ処理に適しているにもかかわらず、文系で使える人はまだ少ないので、習得することのメリットは大きいと思います。

齋藤 隆志 ゼミナール

演習のテーマ

労働経済学の実証分析

演習の内容

このゼミの一番大きなイベントは、3年生の秋学期に実施する他大学との合同ゼミです。4~5人のグループを作り、労働経済学のテーマに興味のあるものを自分たちで選択し、計量経済学を用いた分析を中心とする研究報告をしてもらいます。

そこで、ゼミの応募書類や面接では、みなさんがどのようなテーマで研究をしたいかについて、質問をします。分析手法など専門的なことはわからなくて当然なので、労働経済学にはどのようなテーマがあるのか、その中で自分が何に興味を持っているのかを言えるようになってほしいのです。ただし、ゼミに入ってからでもテーマを変更できますし、グループで研究をするので面接で話したことが100%実現できるとは限りません。

皆さんには、今のうちに労働経済学にはどのような研究テーマがあるのかを、日本経済新聞の「経済教室」や日本労働研究雑誌の「学界展望」、また授業で紹介される本などを読むことで知ってもらいたいと思います。みなさんと同じ大学生が研究報告をしている「日本政策学生会議 (ISFJ)」のウェブサイトも、とても参考になります。

ゼミに入ってからの大まかなスケジュールは次の通りです。まず3年生の春学期にグループの研究テーマを決め、その後関連文献(研究書、論文)を集めて読み、それを手本として自分たちでデータを収集し、夏休みから秋学期にかけて計量分析を行い、結果を解釈し、合同ゼミ用の報告資料を作ります。毎回のゼミでは、各グループでゼミ以外の時間に集まって作業した成果を発表してもらいます。つまり、毎週のゼミの時間はインプットの時間というより、アウトプットの時間になります。インプットは労働経済学や人事経済学、さらに計量経済学や政策評価の経済学を中心とした講義、さらに研究に必要な知識やスキルの自学自習によって行います。

十分なインプットと少しの勇気があれば、自分のグループの研究レベルを高めるだけでなく、他のグループの報告に鋭い質問や有益な提案をすることができ、そのグループの研究の質を高めることに大きく貢献できます。こうして普段から鍛えていれば自信が付き、発言内容も単なる感覚や狭い経験だけではなく客観的・学術的な根拠に基づいたものとなり、合同ゼミでも積極的に他大学の報告者と議論できるようになれるはずです。

勉強以外にも、ゼミ生は毎月イベントを企画します。野球観戦、博物館等の見学、そして中でも夏合宿は大いに盛り上がります。このようにゼミとしての活動が非常に多いので、一人一つ係を担当して運営をスムーズに進めてもらうことになります。サークル・部活・アルバイトとの両立は非常に大変ではありますが、学生生活が充実することは間違いありません。

齋藤 弘樹 セミナール

演習のテーマ

ゲーム理論とその応用

演習の内容

【注意：本ゼミは演習 B (Bゼミ) での募集のため、1 年間だけの演習となります。】

ゲーム理論やマイクロ経済学などの関連分野・応用分野を中心に学びます。主にグループワークが中心となり、グループごとにテーマを選択し、自由な形式で報告・討論をします。過去のゼミでは、ゲーム理論の基礎、行動経済学、マッチング理論、オークション理論などをテーマとして扱ってきました。

本ゼミでは、自立的・能動的な学習態度が強く求められます。また、ゼミ生一人一人が何らかの役割を持ち、ゼミの行事には積極的に参加することも求められます。

佐々木 百合 ゼミナール

演習のテーマ

金融・国際金融

演習の内容

佐々木ゼミでは、金融、国際金融に関連するトピックスを取り上げて研究する。具体的には、まず広く浅く金融・国際金融の知識をつけるためにテキストを輪読して研究上必要な基礎的な内容について学習する。次に、トピックを決めてそれについてグループで研究をすすめ、ゼミ内や他大学のゼミとディベートをすることで理解を深める。その後ゼミ内で研究発表を行う。また、月に数回コンピュータを利用して、テーマに関連したデータを集めて統計的に分析したり、研究成果をプレゼンテーションしたりする。その他、ゼミでは株式運用レース、投信レースに参加したり、見学・合宿・コンパなどの課外活動も行う。

参考として、ゼミで扱うトピックや、卒論に取り上げる題材は、例えば「日本の金融政策の検証」「為替相場の貿易収支への影響」「フィンテックの影響と今後の展望」などである。

ゼミは学生中心に進めるので、しっかり学びたいという気持ちを持ち、積極性のある学生を希望する。

宋 立水 ゼミナール

演習のテーマ

開発経済学の理論・政策と東アジア地域経済に関する研究

演習の内容

経済発展は、世界各国の共通の課題である。本ゼミでは、東アジア地域の経済発展問題を取り上げ、経済・技術的、歴史・文化的、社会・制度的状況について、開発経済学のアプローチでの研究・検証を行う。

三年次では、主に開発経済学の理論・政策・実証方法を学習する。四年次では、皆さんが学習した理論・実証方法を応用し、自由に設定した課題について研究を行い、卒業論文を作成する。

ゼミの学習方式は、学生諸君を主体とする個人予習—2～3人グループ学習—グループによる発表—全体討論という形式を採用する。

東アジア地域のような発展途上国の経済発展諸問題を考察するとき、経済学の諸理論（仮説）の習得は当然だが、基本的な分析方法論としての統計学など基本知識の学習を薦める。

ゼミの学習効果を高めるために、読書をすること、思考（仮説を立てる）をすること、議論をすることを全員に要求するが、意欲のある学生を大歓迎する。

なお、三年次のゼミ合宿の代わりに、教員が担当するフィールドスタディ C（中国社会経済現地考察）の実習科目の履修を薦めます

高松 慶裕 ゼミナール

演習のテーマ

財政学，公共部門の経済学

演習の内容

財政学は、狭義には政府が資金をどのように調達し、どのように支出するか、を研究する学問で、広義には政府（公共部門）の経済活動を対象にした経済学です。主たる研究対象は、租税（所得税、消費税、法人税など）、公債（財政赤字、財政再建など）、社会保障（年金、医療・介護保険、生活保護など）、地方財政・政府間財政などですが、他にも予算制度や財政政策・経済政策などカバーする領域は多岐にわたります。ゼミのテーマは、広く公共部門の経済学の中から学生主体で決めてもらいます。

2025年度はBゼミでの募集になります。4年次のゼミや卒業論文の指導はありませんので注意してください。

ゼミの進め方は以下のとおりです。

最初に財政学の教科書を輪読し、財政学の基礎理論や考え方、制度について学び、何が問題かを考察します。その後（同時並行で）、4名前後のグループ毎にテーマを設定してもらい、共同研究を行います。その成果は論文にまとめ、11～12月頃の他大学との合同ゼミ（2025年度は現時点で未定ですが、2024年度は弘前大学金目ゼミ・広島修道大学河合ゼミ・大阪学院大学原田ゼミとの4大学合同ゼミを予定しています）で発表します。加えて、学期末の学部ゼミ研究発表会でも発表します。

なお、3年生の共同研究の進捗報告や4年生の卒論中間報告（11月頃）、卒業論文発表会（1月・卒業論文提出後）は3・4年合同ゼミで行っています。

高松ゼミの基本方針は「論文を書くこと」にあります。財政学（または経済学）の領域から自分（達）自身で問題を設定し、それを経済学的に分析し、結果を論理的に表現できるようにすることを目指します。

その他、ゼミの恒例行事として、歓迎会・懇親会や夏合宿なども行っています。特に共同研究を学外で発表する（他大学との合同ゼミを行う）ためには、ゼミ生一人一人がゼミ運営に積極的になり、主体的に関与する必要があります。このゼミを教員とともに作り上げてくれる熱意のある学生を求めます。

田中 淳一 ゼミナール

演習のテーマ

歴史的にみるヨーロッパ社会経済の展開

演習の内容

このゼミでは、近現代を中心としたヨーロッパ諸地域の社会経済の展開について、地域史やグローバルな観点も含めた歴史的視野から検討していきます。

ヨーロッパはもともとユーラシア大陸の辺境にありながら、ギリシャ・ローマの哲学や技術、キリスト教の信仰・文化などを背景にしつつ、大航海時代、工業化などを経て近代に至ると、一地域を超えグローバルな世界システムの中核を占める勢力として台頭しました。最近こそアメリカやロシア、そして日本、中国、その他のアジア地域も台頭し、その政治的・経済的な影響力の大きさは以前ほど意識されなくなりましたが、ヨーロッパもEU(欧州連合)を形成するなどして、今でも一定の地位を保っています。

それだけではありません。近現代に発展した思想・技術・学問の源は多くヨーロッパにあり、現在でも近代ヨーロッパの作り出した価値規範は世界の経済、文化、社会の在り方に大きな影響を与えています。そのように考えたとき、ヨーロッパの社会経済の歴史を学ぶことは現在の我々の価値観の根本を問い直していくことにもつながるはずです。

このゼミでは以上のような問題認識を背景に、現代に至るヨーロッパの社会経済の歴史的展開を学びます。さらにそのうえで個々の関心のあるテーマを設定して分析や考察に取り組み、その成果を卒業論文の形にまとめることを目標とします。具体的には以下のような形で授業を進行する予定です。

3年次は、ヨーロッパの経済史や地域史、グローバルヒストリーなどについていくつかの基礎文献を受講者全員で講読していきます。講読する文献は受講者の関心や要望も考慮して決定し、受講者は文献のレジюме作成やプレゼンテーションを通じて、ヨーロッパの社会経済の歴史に関する基礎知識を固めつつ、卒業論文のテーマを決定していくことになります。論文のテーマについては、ヨーロッパに関係するものであれば時代や範囲はある程度自由に設定することができます。

4年次は、前年に決定したテーマに従って具体的に卒業論文を執筆することが目標となります。授業については毎回各自の卒業論文の研究の進展について報告してもらい、それについて議論していきます。

ゼミの授業は学生も主体的に参加して共に作り上げていくものです。歴史と調べることが好きで意欲ある方の参加を期待しています。

田中 鉄二 ゼミナール

演習のテーマ

食料・環境・エネルギーの経済学

演習の内容

私のゼミでは学生が食料、環境、エネルギーの分野をグローバル経済の観点から分析し、研究発表をする事を考えておりますが、学生が主体的に運営をしてもらいたいので、学生からの提案を十分に考慮したいと思っております。

食料、環境、エネルギーは注目を浴びている SDGs の重要な項目であり、それぞれが互いに影響し合っています。例えば気候変動を抑制するためにトウモロコシ、大豆、菜種油、サトウキビ等からバイオ燃料が生産されています。それにより家畜の餌であるとうもろこしの需要が増加し、価格が高騰し、食肉価格も上昇すれば、食料安全保障を脅かす原因となります。世界は持続可能な社会の構築を目指していますが、どのようにバランスをとるべきかを考える必要があります。また、農産物（大豆、小麦など）やエネルギー商品（原油、天然ガスなど）は金融市場で取引され、グローバル経済や各国の経済政策の影響を大きく受けます。

SDGs は現代のキーワードになっていますので、これらの分野を理解することはどの学生の将来にも非常に有益です。また、金融市場も勉強し、グローバル経済の動向も予測する事ができることを目指します。私のゼミでは「英語で学ぶ」を重視したいと考えています。英語で書かれた論文や新聞記事などの資料を読み、短いレポートを英語で書き（上手に書けなくても構いません。トライする事が重要です。）、それを基にプレゼンテーションをしてもらいたいと思っております（可能であれば英語によるプレゼンテーションにしたいです）。卒業論文のテーマは自由に決める事ができます（必ずしも上のテーマである必要はありません）。

英語は誰でもできるようになりますし、皆さんが思っているよりも難しくありません。英語ができれば、情報量が増え（インターネット上の情報の60%が英語で、たった2%が日本語です。）、世界中に友人を作れ、国際的にビジネスも出来るようになります。将来の目標に向かって頑張っている学生が来てくれたら、とても嬉しいです。

土屋 拓也 ゼミナール

演習のテーマ

ビッグデータの解析とその応用

演習の内容

本ゼミナールでは、様々な情報を含む実社会のビッグデータの解析を行います。主に数万件以上のデータに対し、統計解析を用いてそのデータの情報を整理し、統計的な観点から情報の解析を行うことを目的とします。また、情報の特徴からモデルを提案し、情報の存在しない部分や領域に対し、推定を行います。可能であれば、これらの結果から経済学的な結論や主張が導き出せることが理想です。

ビッグデータの解析には、機械的なツールが必要なため、プログラム言語が必要です。そのために、3年次春学期はデータ解析のためのツールの使い方を学びます。これにはPython言語を用いる予定ですが、データの解析ができればよいためプログラム言語自体にはこだわりはありません。また、どのようなビッグデータを扱うかについては、3年時の秋学期前に希望をとります。なお、これまでに扱ったことのあるデータは全国の賃貸物件データと全国の美容室のデータです。扱うデータは、これらのデータでもそれ以外のビッグデータでも構いません。

3年時秋学期から4年時春学期は、実データを用いて解析を行います。ビッグデータからデータの特徴や傾向をみるには、統計量で評価するのが適切なので、統計の学習をしつつデータの解析を行います。その際に微分積分や線形代数の知識が必要となるので、都度学びながら進める予定です。そのため、高校で微分積分を学んでいる場合や入学後に数学系科目を履修している場合は、既にある程度の統計量の特徴が把握できるため、データの分析がしやすくなります。

4年次秋学期は春学期までのデータのまとめを行います。ビッグデータの解析では明確な結論が出るのが稀なため、不明確な結果に説明を加えて説得力のある結果として結論付けるという作業が必要となります。このような作業は卒業後も必要となる技術のため、本ゼミナールの成果として身に着けたいと考えています。

ゼミナールという形態状、進めていくうちにわからないことや知らないことはたくさん登場します。そのため、配属時に知識がないことは問いません。その都度自分で主体的に調べて勉強する意欲のある方を募集します。

中野 聡子 ゼミナール

演習のテーマ

経済学史、経済思想史、現代経済学の思想背景

演習の内容

この演習は、経済学史・経済思想史をベースにしながら、現代に到るまでの経済学の基本的な考え方を習得することをねらいとしています。つまり、経済理論や思想が、どのような時代や場所で、どのような文脈で出てきたかを参照しながら、現代の経済学の理解を深めようとしています。さらに、現代の経済学の問題点や可能性を探るために、様々な学説の限界と意義を検討します。したがって、経済学に今ひとつ理解できない部分がある、あるいは、もう少しその意味を深く考えたいというような問題意識のある学生の参加を想定しています。 _

例えば、A.スミスは、経済自由主義をどのような思想で捉えていたか？経済学という学問はどのような経緯で誕生したのか？J.M.ケインズの経済政策は、どのような思想に裏付けられて登場したのか？F.ナイトは、不確実性をどのように捉えたか？企業の役割や機能を、経済学ではどのように捉えてきたか？経済学の実証的な方法は、どのようにして現れてきたか？など、ミクロ経済学やマクロ経済学の背景にある経済学の考え方を総合的に見ていきます。 _

2025年度は、春学期中に経済学の歴史を概観し、夏休みから秋学期にかけて、特定のテーマを研究します。特に、20世紀初頭の現代経済学の形成を、J.M.ケインズ、F.Y.エッジワース、A.マーシャルなどを中心に、経済思想、経済理論史を検討します。

ゼミでディスカッションやプレゼンテーションを実践したい。経済学の本や論文をきちんと読んで、経済学の考え方を吸収したい。文献を検索して、体系的に整理する方法を習得したい。ゼミの仲間と交流し、大学での人とのつながりを大事にしたい。以上のことを意欲的に取り組む学生の参加を希望します。

中村 友哉 ゼミナール

演習のテーマ

合理的な行動と非合理的な行動の分析（情報の経済学、行動経済学）

演習の内容

このゼミでは、人間の「合理的な行動」と「非合理的な行動」を学び、経済学を日常生活に応用するトレーニングを行います。

「合理的な行動」は担当教員が開講する「情報の経済学1、2」で学習します。情報の経済学はゲーム理論を発展させた分野です。合理的な人間を想定して、不確かな情報のもとでの「かけひき」を分析します。情報の経済学の学習によって「**かけひきを合理的に分析する力**」を身に付けます。ゼミは「情報の経済学1、2」の内容を前提に進めます。

ゼミの時間は、行動経済学のテキストを輪読します。行動経済学は、心理学の知見を経済学の枠組みに取り入れて、人間の「非合理的な行動」を分析する分野です。計画の先送りやダイエットの失敗といった「意志の弱さ」は、非合理的な行動の代表例です。行動経済学を学ぶことで、「**非合理的な行動と付き合う方法**」を身に付けます。

また、ゼミではチームでテキスト内容を発表するだけでなく、ビブリオバトル（本を紹介し合うゲーム）など、プレゼンの機会を多く作ります。プレゼンを通じて、相手に自分の考え方や意見をわかりやすく「**伝える力**」を身に付けます。

教員と現在の所属学生、そして、新しく加わる学生がお互いに協力して、ゼミを作っていきたいと考えています。人それぞれに得手不得手があります。その中で、自分なりに貢献できることを見つけて、ゼミ活動に協力的に取り組んでいける人を歓迎します。

室 和伸 ゼミナール

演習のテーマ

マクロ経済学

演習の内容

マクロ経済学は、国内総生産（GDP）、物価、失業率の動向を把握し、一国経済全体を定性的・定量的に分析する。経済の仕組みや法則性がわかれば、経済予測や資産運用などにおいて、私達が生活していく上で役に立つ。さらに資本主義経済を深く理解することにつながる。

マクロ経済学の重要分野である経済成長について考察し、経済発展の謎を解き明かそう。長い歴史を振り返ると、経済成長とは1880年頃から1973年までの約100年間で起こった特別な現象だったのだろうか？それとも今後も持続的な成長が可能なのだろうか？豊かな暮らしをしている国と、貧しいままの生活をしている国があるのはなぜか？経済成長のために不可欠な要因は何かについて考えてみよう。

所得格差の問題も重要である。オートメーションやAI技術は、労働分配率を低下させるのだろうか。労働分配率の低下や賃金格差の上昇といった現象をどのように説明できるだろうか。近年、物価の継続的な上昇（インフレ）が進行しつつある。インフレの時代と呼ばれた1970年代の経済と現代の経済を比較して、共通点と相違点を見つけよう。マクロ経済現象が起こった背後にあるメカニズムを考察することが重要である。

ゼミではマクロ経済学に関する文献を輪読する。あらかじめ該当箇所を割り当てておき、学生がプレゼンテーションをする。課外活動やゼミ合宿にも積極的に参加すること。ゼミはともに学び合いの場であり、教育を通じた人間形成の場としたい。

赤松 直樹 ゼミナール

演習のテーマ

消費者行動とマーケティング

演習の内容

このゼミナールでは、「消費者の視点に立ちマーケティングについて分析すること」を基本的なスタンスとしています。研究論文や学術書の読み込み必須ですが、仮説構築や仮説検証のために利用するデータの種類の問いません（定量データ、定性データなど）。

基本的には、グループワークが中心です。最初は、既存データや共通の課題に関して各グループで研究を進めてもらいますが、その後は、研究テーマや課題設定、データ収集・分析など一から研究をはじめ、その成果を報告してもらいます。これには、ある程度の時間と議論を要するため、ゼミナールの時間外でもグループワーク等を自主的に行うことが求められる場合があります。また、他大学のマーケティングゼミとの勉強・研究会、討論会などに参加することも検討していますが、この点は、学生の皆さんと話し合いながら決めていきたいと考えています。

ゼミナールを通じて勉強・研究に打ち込むことで、物事の考え方・議論の仕方などを少しでも深めていきたい、大学卒業後も長期にわたって付き合っていける友達を作りたい等、大学生活をより一層充実させたいと考えている学生をお待ちしています。

飯田 浩司 ゼミナール

演習のテーマ

コンテンツビジネスと法

演習の内容

このゼミでは、「コンテンツビジネス」に関して、ビジネス面と法律面での問題点を検討します。一口にコンテンツビジネスと言っても、出版産業、音楽産業、映画産業、アニメ産業、ゲーム産業、演劇産業、放送業、インターネット産業など多岐にわたっていますが、このゼミではこれらのコンテンツビジネスの中から、ゼミ生の興味に応じて対象を選び、取り上げたいと思います。

ビジネス面に関しては、それぞれの産業の仕組み、今日的課題や将来像の考察が中心となり、また、法律面に関しては、著作権法の考察が中心になりますが、その他のもコンテンツビジネスに関する法(例として、契約法、独占禁止法等)についても取り上げることができればと考えています。

3年次は、コンテンツビジネスを理解する上で不可欠な著作権に関する知識を習得した上で、コンテンツビジネスの各業界について、グループまたは個人で予習の上、発表してもらうことを考えています。さらに、コンテンツビジネスに関する争点についてグループに分かれてディベートを行う予定です。4年次は各自テーマを設定して卒業論文を作成します。

コンテンツビジネスを対象とするゼミなので、コンテンツビジネスの現場で働く人の話を聞いたり、実際のコンテンツビジネスの現場(レコーディングスタジオ、テレビ局、新聞社等)を見学したりするなど現場の雰囲気を感じ取ってもらえる機会を設けたいと考えています。

ゼミ合宿や懇親行事も実施する予定であり、具体的な内容についてはゼミに参加する皆さんの希望を基に決めたいと思います。

五十嵐 千尋 ゼミナール

演習のテーマ

日本経営史、日本経済史、産業史

演習の内容

このゼミでは、日本経営史上における様々な企業のケーススタディを学んでいきます。そのなかで、企業の成長に関する基礎的な知識や、論理的な思考を習得することを目指します。そして自らの学びや思考をまとめて文章化し、他者と共有することが出来る能力を身につけること、自ら情報を集めて思考し、議論することを目的としています。

3年次の演習 A1 では、テキストをもとにいくつかの日本企業のケーススタディを学びながら、文章でレジュメを作成し、報告、ディスカッションをします。我々は常日頃、メールなどで文章を作成していますが、学術的な文章はなかなかすぐには書けるようになりません。インプットとアウトプットに慣れていきましょう。また様々なジャンルの企業の歴史に触れながら、自分は何に関心があるのか、視野を広げていきましょう。

続く演習 A2 では自らテーマを設定し、ゼミ論文を執筆します。その際、論文執筆のための記述資料やデータの探し方も習得します。

4年次の演習 A3・A4 では、各自が興味を持った事象について卒業論文のテーマとして定め、3年次の経験を生かして自らの問題意識から課題を設定、実証を行い、卒業論文を執筆します。主に個人で作業を進めていくこととなりますが、定期的にゼミで作業の進捗を報告し、全体での中間報告も行います。演習 A4 では卒業論文の完成を目指します。

企業博物館や工場見学、国会図書館への訪問といった課外活動を考えています。参加は任意です。ゼミ生から訪問先に希望があればそれに沿う形で行いたいと思います。

尾畑 裕 ゼミナール

演習のテーマ

原価計算、管理会計、(+Python)

演習の内容

本ゼミでは、原価計算と管理会計をテーマとしますが、ゼミの活動の大部分は Python を使ったプログラミングとなります。尾畑ゼミは、システムと会計の両方に強い人材の輩出を目指しています。こういった人材は、非常に社会に求められていますが、稀少です。みなさんは、原価計算と聞いて、資格試験や検定試験の試験科目を連想されるかもしれません。常に電卓をたたいているイメージがあるかもしれません。しかし、実務で行われている原価計算は、実に多様で、創意工夫が要求されます。決まったパターンを適用するだけでは終わりません。より本質的な理解とシステム構成力が求められます。

3 年次の春学期は Python を使ってオブジェクト指向の考えかたで原価計算を学んでいきます。すなわち原価計算を構成する様々な概念をクラス (型) として定義して、それを組み合わせて計算のロジックを組み立てていく演習を行います。それにより本質的理解と応用力を身につけます。電卓片手に計算を行う原価計算のイメージとはずいぶんと違います。なお、いきなり原価計算のプログラミングはハードルが高いため、オブジェクト指向プログラミングへの導入として簡単なゲームを作成して対戦してもらっています。

Python は入門時のハードルが低いプログラミング言語です。現時点で、プログラミングははじめてというひとでも大丈夫です。しかし、週に 1 回ゼミで演習を行うだけではプログラミングのスキルは上達しません。どこかで寝食を忘れてプログラミンに没頭するような経験を経ないとプログラミングを身につけることはできません。できるだけ早い時期にそういった経験をしてほしいと思っております。3 年次の秋学期からは、身につけた Python のスキルを応用して、経営組織のなかでおこる現象をエージェント・ベース・モデル (ABM) のシミュレーションで再現する実験を行います。エージェント・ベース・モデルのシミュレーションは、ミクロレベルでの簡単なルールがエージェント同士あるいは環境とのインタラクションを通じてマクロ的にどのようなパターンを出現させるかを観察する手法です。参考にするプログラムはこちらで用意します。管理会計の問題を、シミュレーションを使って解明していく研究は、まだまだ新しい研究分野ですが、非常におもしろい領域です。みなさんにもシミュレーションで組織現象や管理会計問題を分析する楽しみを味わっていただきたいと思えます。

4 年次には、卒業論文に向けて個別テーマでの報告をしていただきます。3 年次でせっかく Python を習得するので、Python を活かした研究テーマを推奨します。それにより非常にオリジナリティのある管理会計研究に取り組むことができると思えます。

なお、夏休み中に夏合宿を行なっております。

北浦 貴士 ゼミナール

演習のテーマ

日本企業の経営分析

演習の内容

このゼミでは、歴史的な視点をはじめとする様々な観点から、日本企業の経営を検討しています。なお、2025年度ゼミは、Bゼミですので、活動期間は、1年間となります。ゼミ生皆が仲良くなり、居心地が良い雰囲気を作ることを最も重視しています。ゼミでは、教員が指定した日本企業を事例にして、経営に関する分析方法を学びます。単位は付与されませんが、2024年10月より3年生から始まるゼミの準備のために、予備ゼミを4回程度実施する予定です。また、大学3年時に、ゼミ論文を執筆する予定です。

2025年度ゼミでは、オリエンタルランド（東京ディズニーリゾート）の経営分析を行います。3名の学生によって構成される4つのチームで、各テーマを調査研究していきます。オリエンタルランドは、2024年6月に新エリア・ファンタジースプリングスを開業し、今後、スペース・マウンテンとその周辺環境の整備(2027年度予定)、クルーズ船の就航(2028年度予定)と矢継ぎ早に様々な経営施策を実施していきます。これらの経営施策が会社の成長に与える影響を検討します。

ゼミにおいてコアとなる活動は、体験学習です。体験学習は、1泊2日の日程でパーク及びホテルで実施されます。体験学習の最大のメリットは、文献や教室内での議論からでは、明らかにならない、実際の現場の状況を調査できる点です。事前に、ゼミの授業内で、チームごとに話し合っ、調査内容を設定します。パークに赴き、実際に調査を実施した上で、各人が調査結果を訪問後にゼミで報告します。

それ以外にも、日経テレコム21を用いた新聞記事分析、SWOT分析などの経営戦略分析、アンケート調査、有価証券報告書や決算説明会動画を用いた財務分析を順番に行なっていきます。これらの分析方法を知らない方でも分析できるように、最初に各方法について丁寧に勉強した上で、実際の企業に当てはめて分析を行います。

もっとゼミの内容について知りたい方は、是非公開ゼミに来て下さい。お待ちしております。

齊藤 嘉一 ゼミナール

演習のテーマ

マーケティングと消費者行動

演習の内容

なぜインスタグラマーの持ち物が流行るのだろうか？なぜ普通のギフトより LINE ギフトを贈るのだろうか？なぜライブ配信で投げ銭をするのだろうか？なぜおそろいのコーデで東京ディズニーリゾートに訪れるのだろうか？特定の製品・サービスがよく売れたり、一部の消費者たちの間でのみ爆発的に流行ったり、私たちの身の回りでは、様々なマーケティング現象が起こっています。

このゼミは、ゼミ生各自が興味を持ったマーケティング現象に「なぜ？」という問いを投げかけ、その問いに対して、消費者行動の立場から、ユニークであると同時に説得力のある答えを見つけることをねらいとしています。

なぜそのマーケティング現象が起こるのかを説明するためには、文献を読んでマーケティングや消費者行動の理論を学ぶことも求められますが、それだけでは十分ではありません。このゼミでは、(1) マーケティング現象に興味を持ち、その現象がなぜ起こるのかを既存の理論に基づいて説明しようと試みること、そして、(2) その試みの中で生まれてきた自分なりの新しい説明（仮説）が本当に妥当かを、データを収集・分析することによって確かめることを目指します。

理論を学ぶこと、データ収集と分析のスキルを身に付けることは大切ですが、その現象がなぜ起こるのかを自分なりに説明しようとする姿勢が何よりも大切だと考えます。主体性を持ったみなさんの応募を待っています。

佐藤 成紀 ゼミナール

演習のテーマ：

企業の会計システム

演習の内容：

企業の経営にとって会計システムは、その財政状態や経営成績に関する情報を提供するという、重要な役割を担っています。

ゼミナールでは、こうした会計システムに関する研究を、ゼミ生一人ひとりが主体的に進めることとなります。テーマは会計に関連があれば自由に選択できます。将来就職を希望している業界の企業についての収益性や安全性の分析、会計制度や会計ルールの仕組みや問題点を考察するのもよいでしょう。あるいは、経営やマーケティングと会計の関わりを調べてみることも、有意義な研究です。

実際、各自のテーマを、すぐに見つけることは、なかなか難しいものです。そのような場合、基本の確認から始めると、自分の問題意識を発見できることが多いものです。そうした観点から3年次春学期は、英文教材を用いて会計の基本を学ぶことから始めます。いま、世界の決算書のグローバル・スタンダードとなっているのは、国際財務報告基準などに基づく英文決算書です。会計情報を英語でも理解できる人材がますます求められている、現代のビジネス環境への適応能力を身につけていきます。

こうしたウォーミングアップに続いて、三年次春学期の後半からは、ゼミ生各自のテーマ探しが始まります。毎週、順番に、関心のあるテーマについてのプレゼンテーションをしていきます。ゼミでの個人報告とディスカッションを通じて、自分のテーマを模索して行くわけですが、そのプロセスがとても大切です。参加者全員から色々な意見が出されて、それを参考にしながら、自分のテーマへのアプローチを進めます。四年次では、卒論の完成を目指した個人報告を、さらに積み上げていきます。最初に選んだテーマから、次第に別のテーマに関心が移っていくことも多いのですが、それは、テーマを真剣に探している証拠でもあり、まったく自然なことです。誰もが、迷いながら目標を探すものです。

ゼミでは、「学び」の楽しさを実感してもらえたらと思っています。自分で考え、自分の意見を持つことはとても大切です。ゼミでの報告について出された質問をしっかりと把握し、それに対して的確なリアクションができるように、コミュニケーション能力を高めていきましょう。みなさんが主役となるゼミナール体験を是非、楽しんでもらえたらと思っています。

田原 慎介 ゼミナール

演習のテーマ

経営組織論、アントレプレナーシップ論、地方創生

演習の内容

田原慎介ゼミでは、経営組織に関する理論や考え方を軸としながら、アントレプレナーシップや地方創生など広く経営学に関するテーマを扱います。具体的に、組織と環境との関わりや組織の中で働く人の行動という観点から、組織の適切な運営について、大企業と中小企業/ベンチャー企業の違い、企業と非営利組織の違い、首都圏企業と地方企業の違いを理論的かつ実践的に比較分析していきます。そのため、本ゼミでは、経営組織論に関する理論的な知識の習得だけではなく、物事を深く体系的に考え抜く思考力を養うこと、実際に現場を訪問し現場で何が起きているのかを知ること、実務家の声に真摯に耳を傾けることを重視します。

3年次は、輪読とフィールドワークを中心にグループワークを行い、研究の基礎力を身につけます。輪読は、経営組織論や研究方法論に関する本を用いて思考力の醸成を目的にディスカッションします。フィールドワークは、企業の現地見学と実務家へのインタビューを考えています。これらはグループに分かれて行き、相互に発表し合うことで、理解を深めます。

4年次は、3年次の経験を活かして、自らが興味関心のあるテーマを選び、卒業論文の執筆にチャレンジします。

本ゼミは、ゼミ生の要望を大切にして、フィールドワークをセットにしたゼミ合宿や実務家との交流、他大学ゼミとの交流の機会を積極的につくっていきたいと思います。意欲が高く主体的に行動していきたい学生のゼミへの参加をお待ちしています。

中野 暁 ゼミナール

演習のテーマ

マーケティング、マーケティング・リサーチ

演習の内容

中野暁ゼミナールでは、「マーケティング」と「マーケティング・リサーチ」をテーマに活動していきます。特に、消費者の意識や行動に焦点をあてて、調査を行うことで、その理解を図る方法について学んでいきます。

マーケティング・リサーチの中には、大きく分けて定量調査と定性調査という2つの調査方法があります。ゼミ活動の中では、まず、定量調査をしっかりと行えるような学習と実践を行っていきます。具体的には、マーケティングや消費者行動の理論を輪読と議論を通して勉強していきます。それと並行して、3年次には、グループで問題解決型の実践を行っていきます。ここでは、チームメンバーと協力して、マーケティング課題とテーマを設定して、データを収集して分析するという一連の流れを経験して頂きます。その経験に基づいて4年次からは個人で卒論に取り組みます。

一方で、定性調査に関しては企業と連携した取り組みを行っています。企業のマーケティング担当者が抱える課題に対して、Z世代の学生の皆さんの視点から提案するというワークショップ型の実践です。この過程でグループ・インタビュー手法に関する理解を深めていきます。また、実務家と実際に接することができるので、早いうちから社会に目を向けて活動していくことができます。

これ以外にも、社会の第一線で活躍するマーケッターやマーケティング・リサーチャーから話を伺う機会なども毎年設けています。また、ゼミメンバーの懇親を深める行事も実施しています。

積極性に活動していく志を持った学生の応募を期待しています。

西村 三保子 ゼミナール

演習のテーマ

管理会計、企業分析

演習の内容

企業会計は、企業に関する取引データを収集し、処理し、それらを情報として企業内外の情報利用者に伝達する役割を果たしています。経営管理のために主に企業内部のステークホルダーを情報利用者とする管理会計と、利害調整のために主に企業外部のステークホルダーを情報利用者とする財務会計に大別されます。

管理会計目的に会計システムが提供する情報は、実績記録、注意喚起、および問題解決に分類できます。つまり、管理会計情報は、企業の経営管理者が経営管理のために活用する会計情報なのです。

本ゼミでは、テキストにもとづいて、管理会計や企業分析の様々なトピックについて全員参加で議論していきます。報告者以外のゼミ生も議論に積極的に参加することが大切です。どんな意見でも大歓迎ですので、ゼミが明るく活発な意見交換の場になるよう、皆さんで協力しましょう。

3年次春学期には、基礎知識の習得を目指してテキストを輪読するとともに、毎回レジュメを作成し報告します。秋学期には、12月のインゼミ（他大学との合同報告会）での報告に向け、グループに分かれて調査・研究を進めます。

4年次は、春秋通して卒業論文の執筆に努め、1月の卒論提出を目指します。

また、9月に3・4年生合同の夏合宿(2泊3日)を予定しています。

ゼミ活動を通じて、皆さんが学問上の知識を増やすだけでなく、長い付き合いができる大切な仲間と出会えるよう願っています。ゼミがそのような素晴らしい場となりますように…。

浜口 幸弘 ゼミナール

演習のテーマ

企業戦略と人工知能 AI

演習の内容

当演習では、経営戦略の考え方（必要に応じてマーケティングも）を十分に学習したうえで、企業戦略（主に、マーケティング戦略）に人工知能（AI）を利用する方法について、考察してゆきます。すなわち、利用者側の立場から人工知能の仕組みを基礎から理解し、さらに行動心理学の学習を踏まえたうえで、人工知能を用いた企業戦略（主に、マーケティング戦略）の実際と可能性を扱うことにします。それと同時に、議論できる力と説明能力を身につけられるよう指導します。

初年度前半では、経営戦略に関する教科書読み進め、随時、企業の調査分析を行います。このとき、演習問題および事例研究（自分で調べて報告）を通じて、理解を深めてゆきます。後半では、AIの基礎的な本を読み、その基本的仕組みを理解したうえで、行動心理学の視点からAIの思考を分析し、最終的に、マーケティング分野へのAIの利用を考察します。続く4年次では、卒業論文の製作を進めてゆきます。なお授業を補う形で、状況が十分よければ、3月下旬（2年次）と9月下旬（3年次）にゼミ合宿を行う予定です。

本ゼミナールでは、以下の学生を希望します。

1. 卒業論文を書く学生（ただし、4年次での就活時は、就活を優先して可）。
2. 人工知能と人間の思考の違いについて興味を持っている学生

教科書は『経営戦略入門』（日本経済新聞社）

人工知能および行動心理学に関する本については、適宜選択。

森田 正隆 ゼミナール

演習のテーマ

情報技術とマーケティング戦略（知的能力・価値観・行動原理・人間性の体得）

演習の内容

本ゼミナールは、「情報技術とマーケティング戦略」の関係について考察し理解を深めていくことによって、これからの情報社会を自分自身で分析して意思決定し、そして創造的に行動していけるだけの知的能力・価値観・行動原理・人間性を養うことを目的としています。

輸送や通信の分野における技術革新は、社会体制はもちろん、生産と消費の両面に対しても創造的破壊をもたらし、次代の扉を開く強力なパワーを秘めています。

そこで、本ゼミナールでは、情報技術とマーケティングの関係について、過去の歴史や理論から学ぶとともに、現在世の中で起こっているさまざまな経済事象や経営問題を取り上げ、それらを理論的かつ経験的に考察し分析するという作業を繰り返しおこなっていきます。

また、ケースディスカッション、ロールプレイング、ショートスピーチ、ビジネスプランなどの体験型・参加型の授業を数多くおこないます。

自主的なグループ研究活動も含めてゼミのために割いていただく時間とエネルギーが多くなります。それらの負荷を納得できる方、厳しくはあるが内容の充実したゼミナールを研鑽と成長の場として前向きに捉えることができる方のみご応募ください。

下記サイトに、ゼミの詳細な紹介を記載しています。よろしければご参照ください。

<森田正隆ゼミナールの紹介 #2024>

<https://bit.ly/4cQlOX0>



吉田 真 ゼミナール

演習のテーマ

ドイツ語圏における文化と社会の関係を考える

演習の内容

テーマについては、担当者の指導できる範囲である限り、参加者の希望、関心をできるだけ広く取り入れたいと考えている。

基本的にはドイツと日本を比較しながら文化と社会の関係の問題を考える。たとえば過去に取り上げてきたテーマとしては、EUの成立と今後について、ユーロ危機、環境問題と原発の是非、学校教育、ドイツの自動車産業、ドイツの食文化、音楽と劇場文化、サッカーのブンデスリーガとJリーグ、ドイツと日本の戦後の憲法といったものがある。こうした問題について自由に議論をしてゆく。

Bゼミなので卒業論文はないが、卒論に準ずるようなレポート作成を目標とする。

渥美 利弘 ゼミナール

演習のテーマ

日本と世界の貿易

演習の内容

国際貿易を経済学の視点から学び、貿易データを使って、日本とある国、またはある商品に関する日本と世界の貿易に関する卒業研究をします。

より具体的に、ゼミで学ぶ内容には下記が含まれます。

- ・そもそも貿易が発生する理由、その際の貿易のパターン（何が輸出され何が輸入されるのか）、貿易が行われたときの経済的影響
- ・貿易統計の使い方（データの収集、整理、加工、グラフ化等を含む）
- ・貿易統計の分析

以上の学習・研究を通じて、貿易の理論と実際を学びたい学生を募集します。

私自身は産業立地に関する応用理論的な研究や、最近ではサービス貿易、自動車貿易そして偽造品の問題などについて、経済学の視点から研究をしています。私の関心分野やこれまでの研究について、詳しくは下記に一覧がありますので参照してください。

<https://gyoseki.meijigakuin.ac.jp/mguhp/KgApp?resId=S000333>

李 惠源（イ ヘウォン） ゼミナール

演習のテーマ

韓国の社会と文化

演習の内容

本ゼミナールでは、韓国の歴史・政治・経済・社会・文化や日本との交流などについて学びながら、日本にとって「重要な隣国」である韓国への理解を深めていくことを目標とします。本ゼミナールでは、以下のテーマを中心に取り上げる予定にしていますが、テーマは履修者との話し合いを通して変更となる可能性もあります。

- ・ 朝鮮半島の歴史
- ・ 日本と朝鮮半島の交流史
- ・ 韓国の伝統的な冠婚葬祭
- ・ 韓国の伝統的な芸術・建築・遊びなど
- ・ 朝鮮半島における地域別の食文化
- ・ 韓国における日本ブームの歴史
- ・ 韓流ブームの歴史
- ・ 現代韓国の経済発展
- ・ 激変する現代韓国の政治
- ・ ノーベル文学賞受賞作家ハン・ガンの作品探索
- ・ 在日コリアンの歴史と現状
- ・ 日本に進出した韓国企業に関する調査 など

各履修者には、担当したテーマについて関連文献を読み、視聴覚資料を収集した上でレポートを作成し、プレゼンテーションを行なってもらいます。また各学期 1 回、フィールドワークも実施します。

フィールドワーク:

春学期：東京新大久保のコリアンタウン

秋学期：東京にある韓国企業訪問

ゼミ期間：当該ゼミは B ゼミであり、2025 年度の一年間となります。

生方 雅人 ゼミナール

演習のテーマ

企業財務・投資理論

演習の内容

ファイナンス（企業財務・投資理論）はビジネスパーソンにとって世界共通の専門知識の1つであり、企業財務の知識や分析手法、ならびに投資理論の応用範囲はライフプランニングといった家計にまで及びます。企業財務（企業金融、コーポレート・ファイナンス）では企業が企業価値の向上を目指し、ビジネスをおこなう上で必要な資金をどのように調達するか、資金をどの事業に投資するか、株主にどれくらい利益を還元するかといった意思決定について考えます。投資理論（インベストメント）では株式、債券、投資信託といった金融商品の特徴や投資戦略について考えます。

3年次はグループワークを中心に、基本的な企業財務と投資理論に関連する考え方や知識を高めていきます。例えば、業界当てクイズ（財務諸表ベース）や積み立てNISA（2024年以降ルール）に基づいたポートフォリオ・コンテスト、グループ研究などをおこないます。また、経済・経営のデータ（アンケートデータを含む）や資料を活用して情報を収集し、そこから価値を引き出し、まとめ上げる力を向上させるために、Excelを用いたデータ分析もおこないます。4年次には3年次の内容をさらに高めつつ、卒業論文という目標に向けて逆算する形でゼミ活動をおこないます。そのほかに、先輩ゼミ生との懇談やゼミ合宿等があります。なお、演習の欠席は全体のモチベーションを著しく低下させるので、正当な理由のない欠席に対しては厳正に対処します。このような流れでゼミ生はビジネス・財務について好奇心をもって臨めるようになる基盤を作り、今後のキャリアを意識し、キャリアで使える考え方やツールを身につけていきます。

その他のゼミに関する情報は説明会や学生によるゼミナール紹介のページ等（例：https://econ.meijigakuin.ac.jp/seminar_introduce/23-ubukata/）を参考にして下さい。

（※）昨年度にゼミ生の募集をおこなっていないため、一つ上のゼミ生はいないことをあらかじめご承知おきください。

大野 弘明 ゼミナール

演習のテーマ

Financial Economics

演習の内容

【学習内容】

本演習では以下の二点を学びます。

- ・ファイナンスの標準的な内容を体系的に習得すること。
- ・コンピュータを用い、株価、利子率及び財務会計データなどの取り方、分析方法、データの解釈方法を習得すること。

【到達目標】

以上二点を習得することによって、『進路決定と卒業論文』を仕上げることを到達目標とします。

【ゼミでの2年間】

学生間の対話を重ねることを通じて得られるものは、上述の内容以上に大きな価値があると個人的に考えています。これまで懇親会、夏期・冬期ゼミ合宿、OBOG会などを実施してきました。企画から参加まで各学生に任せますが、ゼミの一員として積極的に参加し行動することを期待します。私もなるべく参加するようにします。

【OB・OGの進路】

卒業生は金融、不動産、建築、商社、アパレルなど多岐にわたって活躍していますが、銀行、保険会社、証券会社への就職比率が相対的に高いです。また、国内外問わず進学するという選択肢もあります。

【注意点】

本ゼミナールでは計算を避けて通ることが出来ません。現在出来ないことは全く問題としませんが、基礎から学習しますので徐々に慣れて下さい。ただし、高度な数学力を求めるというよりは金融経済に関する直観的な思考と理解を高めることに重きを置くつもりです。

岡崎 哲二 ゼミナール

演習のテーマ

日本の経済発展

演習の内容

3年次のゼミでは、19世紀末以降、現代までの日本の経済発展をマクロ的な視点から理解することを目標とする。テキストとして、南亮進・牧野文夫『日本の経済発展』（第3版）（東洋経済新報社、2002年）、菅山信次『「就社」社会の誕生：ホワイトカラーからブルーカラーへ』（名古屋大学出版会、2011年）を使用する。これらテキストを毎回1章ずつ、あらかじめ割り当てられた2名の学生がパワーポイントを使用して説明し、それに基づいて全員で議論する。また、いくつかのテーマを設定して、グループ研究を行い、研究成果をゼミで発表する。

4年次のゼミでは同じ期間の日本の経済発展を、よりミクロ的に産業・企業に焦点を当てて理解する。3年次と同様にテキストの輪読を行うとともに、各学生が卒業論文の準備のための発表を行い、年度末に卒業論文を提出する。

加藤 木綿美 ゼミナール

演習のテーマ

経営組織論・経営戦略論

演習の内容

本ゼミでは経営組織論・経営戦略論を学ぶ。

3年生では経営組織論・経営戦略論の標準的な内容を体系的に習得することを目指す。理論の理解を深めるため、理論を実際の企業活動に当てはめながら企業分析とプレゼンテーションを行う。また、経営に関するテーマについてのGD（グループディスカッション）、実際の中小企業が有する経営課題に対する提案活動などを行う。

4年生は卒業論文の執筆を中心に行う。卒論では理論的アプローチの簡易的な流れとして、フィールド研究からの理論化に挑戦する。すなわち、問いに対する仮説を立て、実際の現場でフィールドワークを行うことで仮説検証を行い、そこから何らかの理論を見出すというものである。経営に関して各自が関心のあるテーマを1つ決定し、資料文献調査を行った上で、インタビュー調査・アンケート調査のいずれかから研究方法を選び、まとめてもらう。テーマ例は以下の通りである。

- ・新業態ビジネスの組織動態：日本における Airbnb シェアリング・エコノミーホストの成功事例
- ・組織市民活動における動機付け要因：オリンピックボランティア参画の意思決定事例
- ・組織の経済学におけるモニタリング費用の国際比較：USED ファッションの事例
- ・組織における慣性と変革：バー業態変化の制度派組織論的解釈

ゼミではディスカッションやプレゼンテーションの機会が頻繁にあるため、自主的に考え発言・行動ができる学生、当該能力の向上を希望する学生を歓迎する。また、進路に対して真剣に考え努力している学生を歓迎する。

木川 大輔 ゼミナール

演習のテーマ

企業の経営戦略とビジネスモデルの研究

演習の内容

ゼミの基本的な軸は、実在する企業の経営戦略やビジネスモデルを分析し、当該企業が抱える課題を発見したうえで、その解決策を検討することです。

3年次には、実在する企業のビジネスモデルを「ビジネスモデルキャンバス」という手法を用いて分析します。例えば、皆さんがよく知っているメルカリやPayPay、TikTokやInstagramといったサービスのビジネスモデルはどのような点が優れているのか？あるいは、よく似たサービスであるUberEATSと出前館の違いはなにか？ABEMAを黒字にするにはどうしたらいいか？といった点などについて、経営学の理論に照らし合わせながらグループで議論し、理解を深めます（分析対象は皆さんの希望を反映します）。

これらのグループワークの過程で、実在する企業の投資家向け資料などを読むことに自然と慣れ、結果として就職活動時の企業分析に役立てることが期待されます。その後、分析したビジネスモデルをもう少し掘り下げて、その企業が抱える課題は何か？どうしたらその企業の収益を高めることができるか？といった点を議論したうえで、3年生の集大成として、3、4人の実務家達を招き、皆さんの提案を実務家の前で発表（中間報告、最終発表の2回）する機会を設けます。

4年次には、卒業論文の執筆が活動の中心となります。3年次に学んだ企業の経営戦略やビジネスモデルを研究テーマの中心とします。研究のアプローチは大きく分けて2つが考えられます。1つ目は、3年次で学んだような、実在する個別企業や競合同士の競争を観察し、既存理論ではうまく説明ができない現象を深く分析し、データやインタビュー等で集めた根拠に基づき仮説（命題）を導き出す研究アプローチです。2つ目は、既存の理論に基づき仮説を構築し、アンケートやその他の方法で得られたデータの分析を通じて仮説を検証するアプローチです。現時点ではとても難しいことに取り組むように感じるかもしれませんが、それほど心配する必要はありません。卒業論文を書き上げた時の喜びや成長の実感は何にも代え難いものになると思いますよ。

最後に、木川ゼミでは、ゼミでの活動を通じて、取組み内容に対する知識、理解を深めることはもちろんのこと、社会に出た後に汎用的に求められる能力（例えば、文章作成能力やプレゼンテーション能力など、およびそれらを個人ではなくチームで準備することに取り組める力）を養うことをゼミのもう1つの狙いとしています。

工藤 健太 ゼミナール

演習のテーマ

データ分析を使って社会の課題について考える

演習の内容

近年、ビジネスの場でもデータを用いた実証分析が重要視されています。そのため、本ゼミナールでは、統計学や計量経済学を中心としたデータ分析の知識を得て、論文が執筆可能な水準となることを目標にします。2年間という限られた期間で卒論研究が完了することを目指します。そのため、参加者は意欲的にゼミに参加し、積極的にスキルを身につけていくことが求められます。

(演習の進め方)

・3年次には、教科書を輪読し、プレゼンを行います。統計学・計量経済学の知識について整理し、Excel や R および gretl 等の計量ソフトウェアを用いた分析も行う時間を設けます。輪読の内容などは、参加者の興味・関心を反映させる予定です。

・一通りの学習が終わったのち、4年次においては卒論の研究テーマを決め、データの収集や必要な知識の習得に注力します。定期的に研究の経過報告を行う機会を設けます。

(卒論研究のテーマ)

データを用いた実証分析であることが前提になりますが、卒論研究のテーマ・内容は参加者の自由です。

(例) ・不祥事などの特定のイベントは、企業の価値に影響を与えたか？ ・近年の金融政策は、経済を活性化させるほどの効果があったか？ ・野球などのスポーツについての統計的分析も卒論として充分取り扱うことが可能

(受講にあたっての注意)

・報告者(報告グループ)は特別な事情を除き、欠席は認められません。授業が成立しなくなるためです。

・本講義では、ゼミ開始時の数学・統計学・プログラミングの知識については特に問いません。ただし、実証分析が可能になる水準に到達するためには、参加者が意欲的に学習することが重要です。

小滝 秀明 ゼミナール

演習のテーマ

貿易と起業

演習の内容

国際的な商取引における豊富な事例をもとに、全員が当事者の立場で議論して世界の第一線で通用する貿易ビジネス・起業・経営のスキル、英語力を身に付けます。

毎回のゼミでは、様々なテーマでのロールプレイや会議、プレゼン、ディベートを通して、自然に司会・発言・質疑・問題解決などを体験できます。また、卒業生や業界の著名人ゲストを招いて多業種の事例や世界標準のビジネスの実情を学び議論します。

年間を通して4名の小グループで貿易商社を起業するビジネスプランを練り上げます。商材を決め、貿易相手国や販売・仕入先を定め、マーケティング戦略を考え、資金繰りをマネージして決算書まで仕上げてみせます。自らが貿易商社を起業することにより貿易と経営の両面を楽しく学べます。将来、起業はもとより部門経営、社内ベンチャー、子会社経営、独立開業などに活かせる実力を自然に身に付けられます。

毎週のゼミではビジネスプランのプレゼンはもちろん貿易等に関する専門書を輪読し発表したうえで、全員で討議します。多くの一流企業幹部を招いてビジネスプラン発表会を開催し、採用に繋がることもあります。

学生が自ら考え、体験・披露することに重点を置くのが我がゼミの特徴です。全員が何らかのかたちで毎週アウトプットして刺激し合いながら、世界が求める一流のビジネスパーソンの力をつけます。必ずや皆さんは「Bゼミでも一年でこれだけ成長できた」と驚き、将来への強みや自信を持てます。すでにゼミ生の多くが商社・金融・物流・観光・航空などの一流企業に進み世界を舞台に活躍していることから、社会が我がゼミ生に寄せる期待の大きさが伺えます。

ゼミ第9期生よ、パッションを持って学び、世界から尊敬される一流になろう！

【小滝秀明：明治学院大学卒業、ロンドン在住17年、起業歴25年、現在、レアメタル商社社長として、日本の国益に資する希少資源の輸入調達に邁進中！】

西原 博之 ゼミナール

演習のテーマ

国際経営、比較経営、異文化マネジメント、企業の海外進出、中国、台湾などの華人経済圏における企業の経営管理、インバウンドビジネス、その他の国際ビジネス関連。

演習の内容

- 1) 開講期間：当該ゼミはBゼミであり、2025年度の1年間限定となる。
- 2) 同演習の研究対象は、「国際経営」、「比較経営」、「異文化マネジメント」、「企業の海外進出」「組織の国際化」、「グローバル人的資源管理」だけではなく、海外から日本に向かう「インバウンドビジネス」、その他の国際ビジネス関連にも及ぶ。つまり、企業や人の国際経営活動に関する「イン」及び「アウト」である。
- 3) 上記内容の関連文献を読んで、報告書を作成、プレゼンテーションを行ったり、その内容に関して質疑応答を行う。

同演習の目的は、国際経営に係わる知識を身につけて理解を深めることである。したがって、以下の活動を通してその能力を養う。

- ① 「国際経営」に関する教科書、参考図書、資料等の紹介、選定
- ② 選定図書の中から担当部分を選び、情報機器を用いたプレゼンテーションの実践
- ③ 少人数グループによるレジュメ作成、報告を行う。メンバーとの共同作業を通して、プロジェクト管理能力を高める。
- ④ 報告班のメンバーは、それぞれ報告レジュメとパワーポイント資料を作成し、担当者はプレゼンテーションを行う。
- ⑤ 報告を行わない班のメンバーは、指定された文献や資料を熟読し、事前に報告に関する質問を全体に提示する。
- ⑥ 報告班メンバーによる報告が終了した後、引き続き司会を務め、他の班のメンバーは質問を提示、質疑応答を行う。
- ⑦ 担当教員は必要に応じて、パワーポイントの提示方法、プレゼンテーション、質疑応答に対する補足説明やアドバイスを行う。

以上、在学中に国際経営についての知識を養うと同時に、学んだ知識を将来の進路、就職活動に役立てていくことになる。

藤田 晶子 ゼミナール

演習のテーマ

企業の開示情報とその分析 —投資意思決定における財務情報と非財務情報の有用性—

演習の内容

企業の財務報告にかかる国際的な開示制度や会計基準をしっかりと理解し、それをどのように分析に活用していくのかを調査研究する。また、将来予測に不可欠とされる非財務情報にも焦点をあて、財務情報と非財務情報の関係や、非財務情報の課題などについて、検討をくわえていく。

具体的には、主として、次の内容を考えている。

- ① 国際的な開示制度とそのもとでの財務報告 ～情報と株価の関係
- ② 財務情報とその国際比較 ～J-GAAP と IFRS の差異
財務情報から考える M&A の成否
研究開発活動・広告宣伝費とその後の企業業績推移
ブランド力と企業業績 などなど
- ③ 非財務情報の役割と課題
ESG 情報の国際比較とその有用性
人的資源に対する投資と企業業績
統合報告書の役割とその分析 ～非財務情報と企業価値との関係
などなど

マイヤーオーレ ヘンドリック セミナール

演習のテーマ

International Business, Marketing and Retailing, Human Resources

演習の内容

In this seminar, we will explore how companies structure and manage their international businesses. Why and how do companies enter foreign markets, how does this affect their organization, how do they organize the management of human resources? Participants will examine these aspects through case studies of various companies, whether they are based in Japan or overseas. We will work with written materials, but research might also include interviews with managers or even the observation of the stores of foreign retailers in Tokyo.

Activities in the seminar will include:

1. Developing research questions and designing a research plan.
2. Learning how to find good information sources.
3. Analyzing information by using available frameworks from business and academia.
4. Confidently presenting findings through presentations and reports.
5. Working together and discussing with others

In addition to developing your analytical and presentation skills, I aim to foster your ability to interact and collaborate with individuals of different nationalities. This will be achieved through opportunities to engage with business professionals and to participate in joint projects, both online and in person, with students from universities outside of Japan.

松園 保則 ゼミナール

演習のテーマ

Public Speaking

演習の内容

This seminar course focuses on public speaking of all kinds. Through two years of seminar activities, students will master crucial principles of public speaking in English and develop their own engaging speaking styles for public presentations. Additionally, this seminar aims to prepare students for their future careers by fostering genuine confidence and professionalism in public speaking.

During the third year, 2025, students will learn about the fundamental principles of public speaking using assigned textbooks. They will also analyze professional speakers as case studies, engaging in group discussions and public speaking exercises in the classroom. Furthermore, to prepare for writing their thesis in English in their final year of 2026, students will write multiple-draft essays supported by logical arguments and information from texts.

Moving into the fourth year, 2026, students will explore the theoretical aspects of public speaking in depth, including text organization, linguistic features, delivery techniques, and psychological aspects. They will learn to apply these aspects when analyzing the performances of public speakers and will select and examine a few speakers using these criteria to develop their own professional speaking styles. The insights and findings from their analyses will be incorporated into their graduation thesis.

Throughout the two-year seminar, students are expected to actively participate in group and class discussions conducted in English during each session.

発行日：2024年9月1日
編集責任者：藤田 晶子
編集集：明治学院大学 経済学部
〒108-8636
東京都港区白金台1-2-37